



期待と信頼に応える公教育の実現 -「CHECK」そして「ACTION」- 「堺・教育フォーラム」より No.1

「期待と信頼に応える公教育の実現」に向け、「協働」「公開」「評価」をキーワードとした本市立学校園での様々な教育活動の取組と成果を発信することで、各学校園の取組の向上を図るとともに、学校園、保護者、地域がともに子どもたちをすこやかに育てていく意識を高めることを目的として、平成20年12月26日、「堺・教育フォーラム」を開催しました。

全体会では「子どもが学びを育む授業づくり」と題して、文部科学省初等中等教育局教育課程課の田村 学 教科調査官の講演がありました。また、5つの分科会では、それぞれのテーマに沿った報告等があり、保護者や地域の方々を含め950人が参加しました。

今号より、全体会及び分科会の概要等を紹介しますので、各学校園の取組の参考としてください。

《全体会》講演 **子どもが学びを育む授業づくり** -「教える」授業から「学びのある」授業へ- 文部科学省初等中等教育局教育課程課 田村 学 教科調査官

【講演概要】

- 今後の学校教育は、学校だけでなく、地域や家庭も一体となって取り組むことが必要
- 新しい考え（新学習指導要領も含め）を実施していくためには、発想の転換が必要
- 新学習指導要領についてのねらい、改訂のポイントなどの説明
- PISA 調査について（15歳（高1）が対象）
 - 定義…身に付けた知識・技能を生活の様々な場面の中で活用する能力を測る
 - ・問題の調査結果から、読解カリテラシーの低下傾向が明らかに
 - ・質問紙の結果から、学習に対する動機づけのモチベーション低下が明確に
- 学習指導要領の改訂は以下の4点が大切
 - ・基礎的・基本的な知識・技能の習得
 - ・知識・技能を活用する学習活動を通して、思考力・判断力・表現力の育成（特に弱い）
 - ※ 「活用する学習活動」を意識した授業づくりを行う
 - ・学習意欲の向上や学習習慣の確立
 - ・豊かな心や健やかな体づくり
- 日本の教師は「世界のスーパースター」であり、指導力が高い
 - ⇒ 習得させる授業力、特に低学年における習得させる授業力が高い

○習得・活用・探究の定義についての説明

- ・習得は繰返しのイメージが強いが、子どもが成長を実感できる授業に
- ・知識や技能を活用する学習活動を行うことも学習を定着させることにつながるため、習得する場でも活用する学習活動が出てくるような授業に
- ・一つ一つの情報・知識をつなげる学習を行うことで、思考力を育成することにつながる授業に

○小・中学校における活用する力を高める授業の様子を紹介

- ・児童生徒が自ら学習していく活動をどんどん取り入れることで活用する場面が増える
※ 活用する力を高める授業が国際的に求められている学力の育成につながる

○探究的な学習の中心は、総合的な学習の時間で

○探究的な学習のイメージ…新学習指導要領では3つの特徴で示している

子どもが課題を設定⇒探究の過程を経由⇒情報収集、整理分析、まとめ⇒課題の更新

○児童生徒の感想より

- ・教科はゴールがあるが、総合的な学習の時間にはゴールがない

○全国学力・学習状況調査において、総合的な学習の時間に関心のある児童生徒は達成状況がよく、特にB問題において大きな差が出てきている。

○学習指導要領の本旨は、授業がどう変わるかが最大のポイントである

参加者のコメントから

【全体会】

教育問題がマスコミなどで騒がれるたびに、学校教育への不安が募っていましたが、今日の教育フォーラムに参加して、堺の教育にかかわる人々の熱い思いに触れ、安心しました。

第1分科会【学力向上】

各学校の発表を聞き、しっかりと課題が把握されており、具体的な取組も参考になりました。家庭でも生活習慣、学習習慣の改善をしていくことの大切さがよくわかりました。

第2分科会【学校評価】

家庭・地域と協力しながら子育てをするために「学校評価」は、とても役立つということがわかりました。よりよい学校づくりのために学校の情報の発信は重要なことだと思います。

第3分科会【地域協働】

地域協働と聞くと、随分難しいイメージをもっていました。子どもたちのすこやかな成長のために、できる人ができるときにできることを学校といっしょに行う、身近な取組なのだ実感しました。

第4分科会【特別支援教育】

私たちは、子どもの成長や発達を見つめて毎日奮闘しているところですが、「この子がつけなければならない力」という目標がはっきりし、そのための手だてをどうしたらいいのかを学ぶことができました。

第5分科会【家庭との連携】

携帯電話やインターネットの危険性について、改めて考えさせられました。ネットいじめを防止するには、学校と家庭が情報を共有して一緒に進めていかなければいけない、ということがよくわかりました。